

令和 4 年 9 月

松居真司 学位論文審査要旨

主 査 山 崎 章
副主査 梅 北 善 久
同 中 村 廣 繁

主論文

High mRNA expression of POU2F3 in small cell lung cancer cell lines predicts the effect of lurbinectedin

(小細胞肺癌細胞株におけるPOU2F3のmRNA高発現はルルビネクテジンの効果を予測する)

(著者：松居真司、春木朋広、大島祐貴、城所嘉輝、坂部友彦、梅北善久、中村廣繁)

令和4年 Thoracic Cancer 13巻 1184頁～1192頁

参考論文

1. Prognostic impact of surgical treatment for high-grade neuroendocrine carcinoma of the lung: a multi-institutional retrospective study

(高悪性度肺神経内分泌癌に対する外科的治療の予後への影響：多施設共同後ろ向き研究)

(著者：春木朋広、松居真司、大島祐貴、前田啓之、吹野俊介、万木洋平、荒木邦夫、梅北善久、中村廣繁)

令和4年 Journal of Thoracic Disease 14巻 1070頁～1078頁

審査結果の要旨

本研究は小細胞肺癌細胞株を用いて、qRT-PCR法とウェスタンブロット法により小細胞肺癌のサブタイプ分類を行い、サブタイプ分類と既存治療薬（シスプラチン、エトポシド）・新規治療薬（ルルビネクテジン）の効果の相関関係について検討したものである。その結果、サブタイプの1つであるPOU2F3のmRNA発現と、ルルビネクテジンの効果に相関関係が認められた。また小細胞肺癌切除標本を用いた検証実験を行い、臨床上もサブタイプ分類が可能であること、小細胞肺癌の14%にPOU2F3が高発現していることを確認した。本論文の内容は、呼吸器腫瘍学の分野で、小細胞肺癌の個別化治療を推進するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。